タイムス少年サッカー

# 「いつもより5倍走った」

# 広いアルウィン満喫

筑摩野の優勝で幕を閉じた第十七回市民タイムス少年サッカー新人戦・カガミカップ。今大会は初めてアルウィンを試合会場に使い、選手はあこがれのピッチで思う存分にプレーを楽しんだ。一方、その広さが勝敗を左右する場面もあった。

準優勝の塩尻広丘サッカークラブ

3位の松島サッカースポーツ少年団

3位の吉田少年サッカークラブ

スタジアムでは二年連続でJリーグ公式戦を開催、日韓ワールドカップに出場したパラグアイチームが事前キャンプをした。松島の田多井真吾主将は「Jリーグの選手も試合するアルウィンでやれて良かった」と話し、ほかの選手も思い出とともに、「いつかまた」と同スタジアムでのプレーを期していた。

しかし一方で、通常の少年サッカーの規格より縦、横約二十㍍長いアルウィンの広さは、得点にも影響。前線に広いスペースがあり、縦パスに走力のある選手が追い付いてのゴールが多かった。試合後の選手からは「いつもより五倍くらい走った」との声も出ていた。

筑摩野の小菅康文監督は「大きいピッチは初めてだったが、3試合最後まで全力で走り抜いてくれた」と運動量を勝因の一つに挙げた。同チームは昭和六十一年の第一回大会以来十六年ぶりの優勝。来年二月に開く創立三十周年式典にも華を添えることになった。筑摩野の吉田大軌主将は「大きな大会で優勝できてうれしい。皆の力で勝った」とうれしそうに話した。

▽準々決勝
◇アルウィン
吉田 1（0—0、1—0）0 須坂
筑摩野 4（1—0、3—1）1 開智
◇芝生グラウンド
塩尻広丘 2（2—0、0—0）0 豊科南
松島 1（1—1、0—0、PK 3—0）1 筑摩
▽準決勝
◇アルウィン
塩尻広丘 1（0—0、1—0）0 松島
◇芝生グラウンド
筑摩野 3（3—0、0—0）0 吉田